

◆2021年7月第1週の説教

■日 時：2021年7月4日（日）聖霊降臨節 第7主日

■場 所：立川教会

■説教題：「キリストと共に死に、キリストと共に生きる。」

■聖 書：ローマの信徒への手紙6：1-11（新約p280）

■讃美歌：532「やすかれ、わがこころよ」、579「主を仰ぎ見れば」

お早うございます。

コロナの感染拡大が再び始まり、第5派が訪れ始めていますとさえ言われています。

変異株の中でも、感染力の強いインド株の広がりが深刻な懸念を呼び起こしています。

開幕まで1ヵ月を切ったオリンピックの開催さえなければ、東京は緊急事態宣言が出されてもおかしくない状況です。

このような中であって、私たちは通常礼拝を再開しました。

ただ、前回の第4派の時と唯一違っている点は、私も含めてですが、ワクチンの接種を受け始めていることです。私は先々週の6月20日（日）に2回目の接種を受け、幸いに副反応もなく、何とか抗体が出来たのではないかと思います。しかし、接種がまだの方も少なくありません。油断することなく、細心の注意を払って、健康には十分注意しながら礼拝を続けて行くことが出来ればと願っています。

ところで、先週、私は何年かぶりに風邪を引き、体調をこわしました。

小高での礼拝の翌日までは良かったのですが、その晩から小雨が降り始め、気温が下がり、火曜日は土砂降りとなり、その雨に濡れて風邪を引いたようです。

火曜の夕方、念のため、教会に備えてある検査キットでコロナの確認をしたのですが、結果は陰性で、水曜日一日ゆっくりし、木曜日から仕事に戻りました。

しかし、火曜水曜のわずか2日でしたが、体調がすぐれなかった時に聴いた讃美歌に心が慰められるのを覚えました。この讃美歌は、3・11以降、この10年、小高の牧師館の書齋に眠っていた前の牧師のCDを持ち帰ったものでした。

先週の吉田さんの証しに、教会に呼び戻されるきっかけとなったのが、アメリカで聴いた韓国人が歌う「輝く日を仰ぐとき」であったとのお話がありましたが、確かに、心身共に弱った時、讃美歌は聴く人を慰める力があることを改めて知らされました。

特に私の心に響いたのは、旧讃美歌 288 番の「たえなるみちしるべの ひかりよ」と同じく 267 番「神はわがやぐら わがつよき盾」でした。

少しだけ歌詞を紹介します。

始めに 288 番 1 節 2 節です。

- たえなるみちしるべの ひかりよ、 家路もさだかならぬ やみ夜に、  
さびしくさすらう身を みちびきゆかせたまえ。

- ゆくすえとおく見るを ねがわじ、 主よ、わがよわき足を まもりて、  
ひとあし、またひとあし、 みちをばしめしたまえ。

続いて 267 番の 4 節です。

- 暗きのちからの よし防ぐとも、 主のみことばこそ 進みにすすめ、  
わが命も わがたからも とらばとりね、 神のくには なお我にあり

数多く収録された讃美歌の中で、なぜこれらの歌詞が心に響いたのでしょうか。

288 番は、曲の静かさと美しさに引かれ、267 番は力強さに励まされたのは勿論ですが、

私の心に深く響くのはやはりこれらの歌詞でした。

心身共に弱り果てた時、それはこの世のやみ夜をさすらう時と同じです。

頼る者誰一人としてなく、どの道を進んで良いかもわからない中で、途方に暮れるのです。

その時の祈り、それは、「神様、明日ではなく、今この時、私を助けて下さい。今この時、次の一步をどこに踏み出して良いのかを教えてください。」そう祈るのです。

明日ではなく、今日、今この時にこそ、神様の支えと導きを願う、そのような心にこの歌詞は重なります。「主よ、わがよわき足を まもりて、 ひとあし、またひとあし、 みちをばしめしたまえ」と。

そして、267 番に励まされるのは、自分の命と体、たとえそれがどうなろうとも、「主のみことばこそ 進みにすすめ、神のくには なお我にあり」との信仰告白を聴くからです。我が身は衰え、弱り果てようとも、主の御言葉は真理であり、神の国は我と共にあるとの確信です。先週は、改めて、神様からそのことを知らされた時でもありました。

それでは、今日与えられた御言葉を見てまいりましょう。

ローマの信徒への手紙第 6 章 1 節から 11 節です。

まず 1 節です。

1：では、どういうことになるのか。恵みが増すようにと、罪の下にとどまるべきだろうか。

私たちの罪が赦されること、それは神様からの一方的な恵みの業に他なりません。

そうすると、間違っ、罪の下に留まる、即ち罪の下に在り続け、罪が増せば、それだけ神様の恵みも増し加わるのではないかとの考えが生まれます。

もちろん、2 節です

2：決してそうではない。罪に対して死んだわたしたちが、どうして、なおも罪の中に生きることができるでしょう。

罪に対して死ぬ。その意味は、私たちを支配していた罪が、主イエス・キリストの十字架によって滅ぼされ、私たちは罪の支配から解放されたことです。その私たちが、解放されたにもかかわらず、再び罪の支配下に入ることなど出来るのでしょうかと言うのです。

そして、3 節 4 節です。

3：それともあなたがたは知らないのですか。キリスト・イエスに結ばれるために洗礼を受けたわたしたちが皆、またその死にあずかるために洗礼を受けたことを。

4：わたしたちは洗礼によってキリストと共に葬られ、その死にあずかるものとなりました。それは、キリストが御父の栄光によって死者の中から復活させられたように、わたしたちも新しい命に生きるためなのです。

ここでパウロは、洗礼について、その意味を語ります。

洗礼とは、死から命へと移し替えられることだと言うのです。

私たちは、誰もが、罪によって支配されているために、死と言う、肉体の滅びの代償を支払わねばなりません。しかし、イエス様は、その十字架において、私たち全ての罪を背負われ、死の淵へと下りました。私たちが、洗礼によって水で沈められた時、それは私たちも又キリストと共に葬られたことを意味し、私たちが支配していた罪も死んだのです。

しかし、神様は、イエス様を死の淵より引き上げられ、復活させ、死に対する勝利を宣言されました。洗礼によって一度水に沈められた私たちも、水から引き上げられた時、死の支配から解放され、新しい命に生きる者とされたのです。

それは、5節です。

5：もし、わたしたちがキリストと一体になってその死の姿にあやかるならば、その復活の姿にもあやかれるでしょう。

私たちの死すべき姿は知ることが出来ます。

それは、葬られたキリストと同じだからです。

そうであれば、私たちが復活した時、どのような姿で復活するのかについて、パウロは、甦りのキリストと同じ姿であることを語ります。

そして、6節から8節、使徒パウロの信仰告白です。

6：わたしたちの古い自分がキリストと共に十字架につけられたのは、罪に支配された体が滅ぼされ、もはや罪の奴隷にならないためであると知っています。

7：死んだ者は、罪から解放されています。

8：わたしたちは、キリストと共に死んだのなら、キリストと共に生きることにもなると信じます。

主イエス・キリストの十字架を思います。

イエス様は、古い私たち、即ち罪によって支配されている私たちのその罪を背負って十字架に架けられました。そして、その肉体の滅びと共に黄泉に降られました。その時、私たちが支配していた罪も又滅ぼされたのです。そして、イエス様のその死によって、私たちは罪の支配から解放されたのです。

それだけではありません。

キリストと共に死に、罪から解放された私たちは、次にキリストと共に生きることが約束されたのです。神様がイエス様を死の淵より引き上げ、甦りの新しい命を与えられたと同じに、キリストの十字架の死と復活を信じる洗礼を受けた私たちも又、永遠の命へと導かれたのです。

9 節から 11 節。

9：そして、死者の中から復活させられたキリストはもはや死ぬことがない、と知っています。死は、もはやキリストを支配しません。

10：キリストが死なれたのは、ただ一度罪に対して死なれたのであり、生きておられるのは、神に対して生きておられるのです。

11：このように、あなたがたも自分は罪に対して死んでいるが、キリスト・イエスに結ばれて、神に対して生きているのだと考えなさい。

パウロによる信仰の勧めです。

まるで、パウロが、私たちのすぐ前に立って、力強く語っているようにすら感じます。

「死者の中から復活させられたキリストはもはや死ぬことがない、と知っています。死は、もはやキリストを支配しません。キリストが死なれたのは、ただ一度罪に対して死な

れたのであり、生きておられるのは、神に対して生きておられるのです。このように、あなたがたも自分は罪に対して死んでいるが、キリスト・イエスに結ばれて、神に対して生きているのだと考えなさい」と。

先週は、思いがけず体調を崩し、多少とも辛い日々から始まりましたが、昨日の朝、憂いを吹き飛ばすような素晴らしいメールが飛び込んで来ました。Kさんの娘さんである方からでした。そのメールには次の文字が記されていました。

「おはようございます。お世話になっております。昨日、母が退院しました。立川でコロナのワクチンを打ち、（私のいる）目黒区に戻りました。補聴器を付けたらすぐ反応し、私は誰と聞いたら、「（私の名である）ひとみさん」と答えてくれました。父は勿論、家族のことも覚えていました。飯島牧師、Aさん、立川教会の皆さんが心配していたよと伝えると、頷（うなず）き、有り難うと言いました。「分かるよ」と話しています。父は、号泣で、そばから離れません。

まだまだ、身体は自由がききませんが、月曜日からは、リハビリも入浴（の介助）も入ってくれます。数ヶ月単位になりますが、回復してくれると思います。牧師様、皆様の御心に感謝しております。宜しくお伝え下さい。

まだ、はっきり決めておりませんが、このまま在宅でと考えております。又、ご連絡致します。有り難うございました。」

信じられないメールでした。

私たちの心を合わせての祈りが聞かれました。

コロナ禍にあって、4月以降、総会も開けず試練の日々が続きましたが、書面に切り替えての総会も無事に終わり、教会財政も守られて今日を迎えることが出来たことは、教会員及び関係者によるお力、大でした。

神様への尽きない感謝と共に、今日、そして明日、精一杯に生きて行きたいと思います。祈りましょう。